Land Mark
安治川トンネル
大阪市

安治川トンネル/大阪市

“川底にかかる橋”として 今も活躍する日本初の沈埋(ちんまい)トンネル

かつて自動車が通行していた頃の安治川トンネル内部

北側入口

市民を誘導する職員

南側エレベータ横の階段スペース

閉鎖されている自動車(南側)用エレベータ

大阪市営地下鉄中央線の九条駅から北西に延びる
昭和の香り漂う商店街“キララ九条”のアーケードを抜けると
突然姿を現す鉄筋コンクリートの建物。
西区と此花区を川底で結ぶ“安治川トンネル”南側のエレベータ建屋です。
日本初の沈埋トンネル※1として昭和19年に開通した安治川トンネルは
今も歩行者・自転車専用トンネル※2として地域住民の暮らしに寄与しています。

現在“水の都”大阪には公営の渡し船が8航路ありますが、
安治川トンネルのあるあたりはかつて“源兵衛渡し”と呼ばれた渡船場がありました。
トンネルが着工された昭和10年当時は激増する周辺の工場に勤める工員を
渡し船ではさばききれなくなっていました。
中途半端な橋を架けても大型船の通行の妨げになることから、
当時の最先端技術を用いた川底トンネルの建設が決定したのです。

最盛期である昭和36年の歩行者は一日約8500人にも上りましたが
現在も約6000人が毎日の通学や通勤などに利用しています。
戦前から戦後、高度成長時代を経て現在まで約70年にわたり、
川底から地域を見守ってきた安治川トンネル。
住民の通い路として、これからも輝き続けることでしょう。

※1 沈埋トンネル
あらかじめ海底【川底】に溝を掘っておき、そこにトンネル躯体を沈めて土をかぶせる沈埋工法で作られたトンネル。
※2 歩行者・自転車専用トンネル
かつては車両も通行していましたが、安治川大橋の開通による車両通行量の減少やトンネル内の排気ガスの問題化などにより1977年に通行中止に。現在車道と車両用エレベータは閉鎖されています。

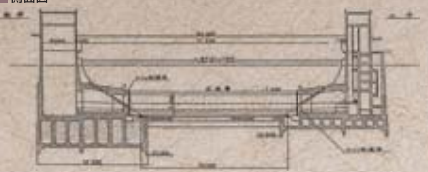
資料提供:大阪市建設局

トンネル南側建屋

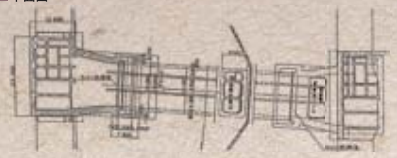
トンネル内部の通路

トンネル南側エレベータ入口

■側面図



■平面図



庶民の香りがする商店街「キララ九条」

キララ九条